

今こそ セルビアとのビジネスを

駐日セルビア共和国大使館特命全権大使

イワン・ムルキッチ

Mr. Ivan MRKIC



過去10年間でセルビアは7%成長達成の年もあるなど、記録的な経済成長を遂げました。しかし、ここ1年半は欧州諸国やその他の国々と同様、経済危機の影響を受けています。セルビア政府は、アメリカから始まった経済危機に迅速に対応したことで、経済・財政システムへの大きな被害を防ぎました。最新の統計では、生産率の緩やかな成長、輸出拡大、安定した経済活動など、回復の兆しがみられます。近年、セルビアの信用貸付・格付が改善され、海外からの投資拡大が期待されています。また、欧州復興開発銀行（EBRD）は、最新の2010年予測において、セルビアの成長率を2.4%としました。

セルビアは2009年12月、EU諸国への査証を免除され、EU正式加盟の申請をしました。2010年2月1日には、セルビア・EU間で暫定貿易協定が発効し、自由貿易区がつけられました。

セルビアには、東西を結ぶ交差点としての有利な地理的条件、民主的な政治システム、英語が堪能かつ専門的な知識を有する人材などのポテンシャルがあります。鉱山、ミネラルが豊富なこと、肥沃な土地、穏やかな大陸性気候、大きな水力ポテンシャルも特長です。そして、ロシア、ベラルーシ、トルコと自由貿易協定を結んでおり、中欧自由貿易協定（CEFTA）の一員でもあるため、セルビアとの事業が立ち上がれば、数億人規模の市場にアクセスが可能となります。

セルビアと日本の両国関係は128年前に始まり、双方の名誉領事館は前世紀の始めに設置されました。現在、大阪でセルビアの名誉総領事を務める大

日本除虫菊株式会社の上山直英社長は、1929年に任命された最初の名誉総領事の孫に当たります。このような長年の交流により、良好な関係が築き上げられてきました。要人の相互訪問も頻繁に行われ、2009年4月、10月にジェーリッチ副首相兼科学技術大臣が、10月にイエレミッチ外務大臣が訪日しています。日本からは、JETRO代表団が11月にベオグラードを訪問しています。

日本は過去10年間、セルビアに多額の援助を行ってきましたが、現在は投資というかたちの経済協力で転換しつつあります。先駆者となった日本たばこインターナショナルは、2006年にセルビア最大のたばこ工場を買収、生産設備に1億ユーロを超える投資をしました。2009年にはアサヒビールと三井物産の共同投資により、天然由来調味料の専用プラントが始動しました。これまでに三菱商事、伊藤忠、トヨタ、ホンダなどが参入しているほか、ファナックやオムロンとはエレクトロニクス分野で協力関係にあります。また、JICAがバルカン事務所をベオグラードに設置していることは、セルビアにとって非常に重要なことです。

セルビアの対日貿易は、輸出量が輸入量をはるかに下回ります。しかし、2009年の対日輸出実績では食料品が20億ドルに達しており、今後は特に冷凍果実ときこの類を日本市場で拡販するべく、努力がなされているところです。

科学、文化、観光などの分野におけるセルビアと日本の交流が、今後あらゆる方面に発展するため、これまでに培われた両国間の安定した土壌が、将来さらに繁栄することを確認しています。